

名誉会員追悼



故 名誉会員 八木 靖浩 君

弔 辞

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、前会長、川崎製鉄株式会社取締役相談役八木靖浩殿のご逝去の報に接し、謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は昭和54年から56年までの2年間本会副会長を、さらに昭和63年から平成2年までの2年間会長を歴任され、鉄鋼技術に関する深い造詣と、優れた指導力をもって本会事業の企画運営に当られました。中でも会長就任後に、大学・研究機関における鉄鋼の研究振興と優れた人材育成の重要性を唱えられましたが、これは後に、鉄鋼業界からの拠出金を基にした“鉄鋼研究振興資金”設立へと展開し、平成4年度から本資金の果実による、研究助成活動が開始されたことにより、氏のお考えが実現されております。

氏は豊かな国際感覚から、国際的な友好関係の促進と我が国の国際的責務の遂行にも積極的に活動されております。即ち、昭和55年9月、鉄鋼圧延部門では初の専門家会議である、第1回国際鉄鋼圧延会議が本会の提唱により開催された際には、副会長として側面から支援体制を整えられました。また同じく本会の提唱により昭和45年に始まった鉄鋼科学技術国際会議の最後を飾る第6回会議が、平成2年10月日本で開催された折には、会長職に加え自ら組織委員長に就任し、会議の準備から運営まで陣頭指揮をとられ、会議を成功に導かれたことは記憶に新しいところであります。

さらに、国際標準化機構—ISO/TC17幹事国業務の本会受入れに伴い、昭和54年4月に新設された事務局の業務遂行体制の整備を指導し、国際的責務を十二分に果たしたことにより、加盟国の信頼を大いに高めました。

これらの事業推進に当っては、氏は高邁なる識見と卓越した洞察力と指導力を発揮され、その発展に多大の貢献をされておられます。

氏は昭和18年東京帝国大学工学部冶金学科を卒業後、川崎重工業㈱に入社、昭和25年分離独立した川崎製鉄㈱に移られ、千葉製鉄所ならびに水島製鉄所において、製鋼技術部門と製鉄所の建設に従事されましたが、撓まざる研究心と、チャレンジ精神を発揮し、製鋼技術の育成、発展に努めるとともに、オンラインシステム導入による製鉄所の管理体制を確立されました。特に大型平炉操業での大量酸素吹込み技術の確立と生産効率の増大、転炉操業における多孔ノズルの開発による顕著な生産能率の向上達成と鋼質の向上など、製鋼技術への貢献は高く評価されております。

氏は昭和57年に社長に就任され、合理化による企業体質の改善に努力されるとともに、新規事業の展開、海外を含めた経営の多角化などを卓越した指導力をもって精力的に推進されました。

氏は本会のみならず、鉄鋼界、産業界に亘る各種団体の要職を歴任し、我が国の経済、学術技術の発展に多大の貢献をされました。これら一連のご業績に対して、本会から渡辺義介賞、服部賞ならびに製鉄功労賞が贈られているほか、政府から勲一等瑞宝章、藍綬褒章が授与されております。

本会は平成7年度から事業の抜本的改革の実施に入りますが、今後とも氏のご指導を賜われるものと考えておりましたところ、突然のお別れを迎えることは誠に痛惜の極みであります。

元会長の本会発展に尽されました偉業を偲び、会員一同心から哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

平成7年3月29日

社団法人 日本鉄鋼協会 会長 佐野 信雄